

## 2013年度・第二演習の記録

### <前期>

- 4月11日：芦名定道「オリエンテーション」、「書評：清水哲郎『パウロの言語哲学』  
岩波書店、2001年」
- 4月25日：岩井謙太郎「シュヴァイツァーにおける倫理と説教の関係性——「生への畏敬」の倫理における理性と情動の関連性をめぐって」
- 5月9日：朴鍾順「近代日本文学とキリスト教——「教会」をめぐって」  
南翔一朗「カント哲学における信仰の対象としての神」
- 5月16日：渡部和隆「内村鑑三のヘブライ人への手紙—三章八節の解釈——キリストと実験との関係を中心に」  
金香花「等価概念から自己の解釈への試み」
- 6月6日：谷塚巖「「倫理的なもの」から「宗教的なもの」へ——『あとがき』を手がかりとして」  
洪伊杓「海老名弾正の神道理解研究」
- 6月13日：南裕貴子「ティリッヒ『組織神学』序論」  
張旋「リューサーのフェミニスト神学と「イエス・キリスト」論——キリスト論の新しい展開」
- 7月4日：岡田勇督「ガダマー解釈学における「有限性」概念の意義——哲学史における一水脈とともに」  
長原尚子：「敬虔主義研究及びヨハン・アルントに関する概観」

### <夏期・大学院生研究発表会>

8月30日・31日

日本宗教学会・学術大会（9月6日～8日）、日本基督教学会・学術大会（9月10日～11日）における個人研究発表予定者による予行演習。

### <後期>

- 10月3日：芦名定道「オリエンテーション」、「現代の思想状況における宗教研究の課題——キリスト教研究の視点から」
- 10月24日：南翔一朗「カント哲学における道徳哲学の位置づけとその意義」
- 10月31日：渡部和隆「内村鑑三におけるルターの宗教改革と「第二の宗教改革」——キリスト教史と思想史の視点から」  
金香花「ナイダの動的等価理論における「読者」——聖書翻訳との関連で」
- 11月7日：谷塚巖「キルケゴールと「作者」の問題——仮名テキストの理解に向けての予備的考察」  
洪伊杓「海老名弾正と松山高吉の神道理解に関する比較分析」
- 11月14日：南裕貴子「「伝統の神学」とティリッヒ」  
張旋「R. R. リューサーのキリスト論」
- 11月28日：岡田勇督「親近性と異質性のあいだ——ガダマー解釈学から見た聖書解釈」  
長原尚子「神の国と千年王国——研究テーマ模索の試み」
- 12月5日：洪伊杓「書評：『天皇制国家と女性』——日本キリスト教史における木下尚江」